

有機体における個のリアリティの表出の重要性について

—有機体を豊かにする観点から

田村高幸 (Takayuki Tamura)

千葉大学

[1]において述べられているように、有機体は、その中の個が個同士の関係を見通すことを容易にし、その中で個のリアリティ(アイデンティを含む)を生かしあい、発展していけるようにしており、また、それらの個の相互発展より、有機体自身も発展していくことができるという、多元的一性を持っている。このような有機体の中で、個の持つリアリティ表出の重要性について、以下の提題者による提題及び総合討論にて論じてみたい。

提題者	提題
槇野沙央理	主体が被っていることはどのように明晰にされるのか —ウイトゲンシュタインの「概念形成」を頼りに
田村高幸	個の経験の明晰化の重要性—論理学の観点から

参考文献

- [1] 田村高幸(2021) 「論理的思考の観点からのアプローチによる多元的一性をもたらす方法—有機体を支える知の枠組み構築に向けて」、
『プロセス思想』21号、pp. 42-63